



高橋教授の

この人に 会いたい

Vol.76

ゲスト

高橋 滉

氏

株式会社 中華・高橋代表取締役社長

フカヒレと言えば、かつては高級食材の代名詞だったが、近年は、ラーメン、寿司ネタなどB級グルメとしても浸透している。そのフカヒレで高いシェアを持つ株式会社「中華・高橋」の高橋滉代表取締役社長を迎え、フカヒレの奥深さ、日本の食文化をめぐる課題などを語り合った。現状に満足することなく、常に一步先を読んで動く高橋社長の事業戦略は示唆に富み、病院経営のヒントにもなる。

(10月10日、オンライン取材)

アジアのマーケット開拓に活路 高品質な中華食材を世界へ届ける

「中国人に恩返しをしたい」
終戦後、帰国した祖父が創業

高橋泰 現在、香港に滞在している高橋社長は中華食材のニーズの移り変わりを機敏に察知し、次々に新しい事業を打ち出しています。まず、会社の概要から教えてください。

高橋滉 私の祖父が1953年に創業し、今年でちょうど70周年に

なります。祖父は戦時中、日本軍

の通訳として中国にいて、中国人

と大変親交がありました。敗戦後、

日本に引き揚げてきて「中国に恩

返しをしたい」と考えていたとき、

築地の乾物問屋さんと出会ったそ

うです。フカヒレ、ホタテ貝柱、

ナマコなど中華料理食材を市場か

ら仕入れ、新橋界隈の高級中国料

理店に卸す仕事を始めました。当

時の料理人は皆、中国人でしたが、

祖父は信頼されていたのです。

父に代替わりする
と、業容を拡大。調

味料や冷凍点心など、
ありとあらゆる中華
食材を商う中華卸会
社に進化しました。

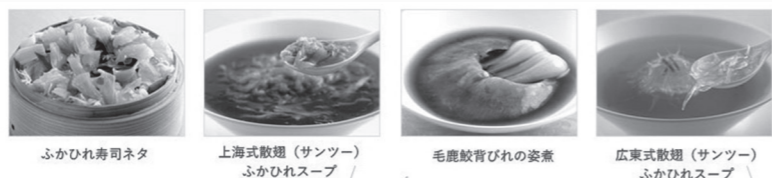
さらに、卸し稼業だ
けでは将来がないと
いうことで、当社の
強みだったフカヒレ

を生産加工する工場
を宮城県気仙沼市に
つくり、名実ともに
フカヒレメーカーと
して存在感を高めて
いきました。

高橋泰 社長は、こ
の対談にも登壇いた
だいた中華の巨匠、
脇屋友詞シェフから「日本一のフカ

ヒレ会社の社長」ということで紹
介いただきました。脇屋さんは「質」
の意味で日本一といわれたと思ひ
ますが、売り上げも日本一ですか。

高橋滉 気仙沼市場における占有
率、その気仙沼の全国における占
有率、さらに輸入原料における占
有率といったものを計算すると、



株式会社「中華・高橋」のホームページより

フカヒレの取扱量、ボリュームで
当社が日本一ということになりま
す。東京都内の高級中華料理の専
門店・レストランに限ると、シェ
アは40%ほどです。

高橋泰 香港に活動の拠点を移し
た理由は何かですか。

高橋滉 私が経営者となって22年
の間に、フカヒレや冷凍総菜など

の製造事業を確立し差別化を図っ

てきましたが、この先の事業運営

を考えると、より幅広い食材に対

して、自身の価値観でものづくり

をする必要があると感じています。

世界は「ヒト、モノ」の壁がなく

なってきたので、中小企業の

私たちがあっても、食材探しやモ

ノづくり、働く人材もアジアを日

本と地続きのマーケットとしてと

らえていかなければなりません。

当社は89年から香港に現地法人を

設けていたこともあり、日本とア

ジアをつなぐ拠点として好立地で

ある香港に自らが拠点を移し、可
能性を見出そうとしています。



撮影=●●●●

文革の影響で一時的に消える 日本で働いたシェフが伝承

高橋泰 次に、中国のフカヒレ事
情についてお聞きします。私は15
回ほど訪中していますが、フカヒ
レの姿煮を食べた記憶があまりあ
りません。中国では、日本ほど姿
煮を重視していないのですか。

高橋滉 香港、あるいは中国の広
東省あたりで宴席の際に姿煮が出
てきたら、日本のようには喜んで
はくれないでしょう。フカヒレの
価値は姿の美しさではなく、金糸
という一本一本の繊維の太さと長



フカヒレ依存からの脱却へ — 高橋 滉

さで決まるからです。

たとえば、60〜90gの姿煮が出てくれば、香港では「こんなものを私に出すのか。形はいいから、もっと太くて長いものをわかりやすい形でほぐして出せ」と言われるでしょう。フカヒレの価値観が日本とはまったく異なるのです。フカヒレが出るか出ないか、フカヒレは出るが、どのグレードのものが出るかで、その宴会のレベル

が決まるのです。つまり、招待される側を、招待する人がどう見ているかがわかるということです。

高橋泰 それは面白いですね。

高橋滉 招かれた宴会でフカヒレすら出なかったというところ、「彼は私のことをその程度にしか見ていない」と思われます。逆に、とてもなく質のいいフカヒレが出てくれば「私のことを大切にしている」というメッセージになります。

高橋泰 知識不足の料理人がいたとしても、自分自身で味を自分で補正できるというのは大変興味深いですね。それでは、将来展望についておうかがいします。今後、海外展開を考えると、やはりフカヒレ中心になりますか。

高橋滉 これからの10年間で、フカヒレのビジネスは相当変わると考えています。環境保護団体は現在、海洋生物としてのサメを最大のターゲットにしています。サメを

保護しようという世界的な論調はますます高まっていくでしょう。

高橋泰 クジラのようになるということですか。

高橋滉 そうです。私は10年前、「脱フカヒレ依存」を掲げ、フカヒレ以外の製造事業として中華総菜事業を始めました。フカヒレが高騰しているため、売り上げ構成比としてはフカヒレ依存が高いのが現状です。フカヒレ以外の商品の大半は日本国内の商社、メーカーから

質の追求こそ、成功のカギに — 高橋泰



高橋 滉

Akira Takahashi
株式会社 中華・高橋
代表取締役社長

たかはし・あきら ●1973年生まれ、東京都出身。大学卒業後、株式会社中華・高橋に入社。2001年、2代目社長の父親の死去に伴い、28歳で社長に就任した。同年、中華食材の小売店舗として、東京・日本橋に株式会社古樹軒を設立。13年には、オリジナルの冷凍総菜や調味料といった自社製品の開発製造、外部企業向けのレシピ開発やOEM（相手先ブランドによる生産）などを手がける拠点施設「C、skitchen」を開設するなど商品と販売先の多様化を推し進める

日本では姿煮を珍重していますが、金糸の太さ、長さを重視する価値観に移行したほうが、フカヒレをより楽しめます。

高橋泰 ところで、フカヒレの本場はどこですか。上海でも四川に行っても出てきませんし、広東では「ここが王道だ」と言わんばかりに出してきます。一方、北京ではそれほど印象がありません。

高橋滉 ありとあらゆる食材をふんだんに使った宮廷料理にもフカヒレが登場しますが、ルーツとなると潮州、広東ということになると思います。文化大革命のころ、ぜいたく品はよくないということでフカヒレの食文化が一時的に途絶えてしまったようです。その影響を受けなかった香港ではそれまでのフカヒレ料理が残り、大陸で

の仕入れ品のため競争力が低く、それらを自社の企画品に置き換えていくことが出発点となります。

まずは、海外のありとあらゆるメーカー、素材を持つているところを歩いて、日本の今のわれわれのお客様のニーズに合うものを見つけて、商材開拓をやっています。フカヒレビジネスをやってきたというところで、お客様に富裕層が多いことが強みです。香港でアジアのマーケットをリサーチし、将来は、富裕層向けの輸出ビジネスも手がけていこうと考えています。

時代とともに変わる価値観 食材流通の新拠点の確立へ

高橋泰 以前、海外でも知られる

は改革開放後、日本で高級中華料理を花開かせた中国人のシェフたちが自国へ戻り、姿煮という新しいスタイルを持ち込んだことが、香港とは異なるスタイルが見受けられるようになったことに少なからず影響を及ぼしていると考えています。

富裕層をターゲットに 新たな商材開発に注力

高橋泰 これから忘年会シーズンを迎えます。フカヒレ料理を楽しみ、よりおいしくいただく方法がありますか。

高橋滉 フカヒレにどれだけ味を含ませるかが、おいしく食べる秘訣です。わかっている料理人さんは、しっかりと味を含ませる工程をほどこしてくれれます。ですから、姿煮を割ったとき、断面を見ることは鉄則です。断面を見て、味の沁み込んだおでんの大根のようになっていないかチェックし、沁み込んだくないときはほぐして、バラバラになったものソースに絡めながら食べるというでしょう。

日本酒ブランド、獺祭の桜井一宏社長と対談した際に、日本酒の質を追求することで新たなビジネスが広がるとおっしゃっていました。高橋社長も、食材の質を追求することによって、日本の食材を海外にアピールできるとお考えですか。

高橋滉 そのとおりです。時代の変遷とともにモノの価値は変わっていきます。特に食料品については、おいしいもの、安全なもの、栄養価が高いといったものは、宝石のように価値が上がっていくでしょう。品質の高いものを少量ずつでいいから、しっかりと枠を確保するルートを構築していくことが大事です。

高橋泰 流通ルートが確立していない日本のいい食材、あるいは日本にはまだ入ってきていないけれども、海外にはいいものがたくさんあります。それらを取引する流通の新しいハブになろうとしているわけですね。これからも、日本の食文化をリードしてください。

本日は、どうもありがとうございます。

高橋 泰

Tai Takahashi
国際医療福祉大学教授

たかはし・たい ●1986年、金沢大学医学部卒業、東京大学病院第1第3第2内科・麻酔科で研修。92年、同大学医学部医学系大学院医学博士課程修了（医学博士）後、米国スタンフォード大学に留学。94年、ハーバード大学公衆衛生校に武見フェローとして留学。97年4月、国際医療福祉大学医療福祉学部医療経営管理学科教授。2016年9月より21年3月まで安倍内閣未来投資会議の構造改革徹底推進会合医療福祉部門副会長を務めた